

## 〔特定非営利活動法人よつくらぶ よつくら港地域振興施設「交流館」復興事業〕 道の駅よつくら港「交流館」が完成 完成式典、オープニングイベントが開催されました

8月11日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第1次助成先の一つである特定非営利活動法人よつくらぶが運営する『道の駅よつくら港「交流館」』が竣工し、完成式典並びにオープニングイベントが開かれました。

平成21年にオープンした『道の駅よつくら港「交流館」』は、日本で唯一港の中にある道の駅です。地域の生産者と密接な関係を持ち、農水産物を提供する重要拠点として、190人の生産者による直売所、地ものを使った料理を提供するレストランなどを有し、地域雇用の場また地域交流の場として年間60万人が利用していましたが、震災による津波で機能の大半を損失しました。「このままではせっかく作った作物なども売ることができない」、原発事故の風評被害にも苦しむ地元の農業・水産業者の声に応え、震災から1ヵ月後の昨年4月に土日の営業を、7月には平日営業も仮設店舗で再開しました。そして昨年8月にヤマト福祉財団の1億8000万円の再建費用の助成が決定、今年1月17日に地鎮祭が行われ、8月11日に多くの地元の方が待ち望んでいた『市民の交流の場、販売・流通の場』となる新たな交流館が防災設備も備えて完成しました。

完成式典でよつくらぶの佐藤雄二理事長は「この交流館が成功することで、『よし、私たちも』と続き、復興の輪が広がっていくと信じています。今後、地元復興のシンボルとなれるようにみんなで力を合わせて盛り上げていきます」と挨拶されました。



●新たに完成した「交流館」の概要  
・鉄骨造2階建て、建築面積：493.2㎡、延面積：930.1㎡・防災機能（緊急避難場所、雨水貯水槽、非常用発電機等）・農水産物直売所、フードコート



テープカットを行う有富理事長  
(写真中央)



オープンを待ちわびた大勢の市民が  
詰めかけ大賑わい



1階は農水産物直売所、2階は5件の  
テナントが営業するフードコート